

赤十字かごしま 春号

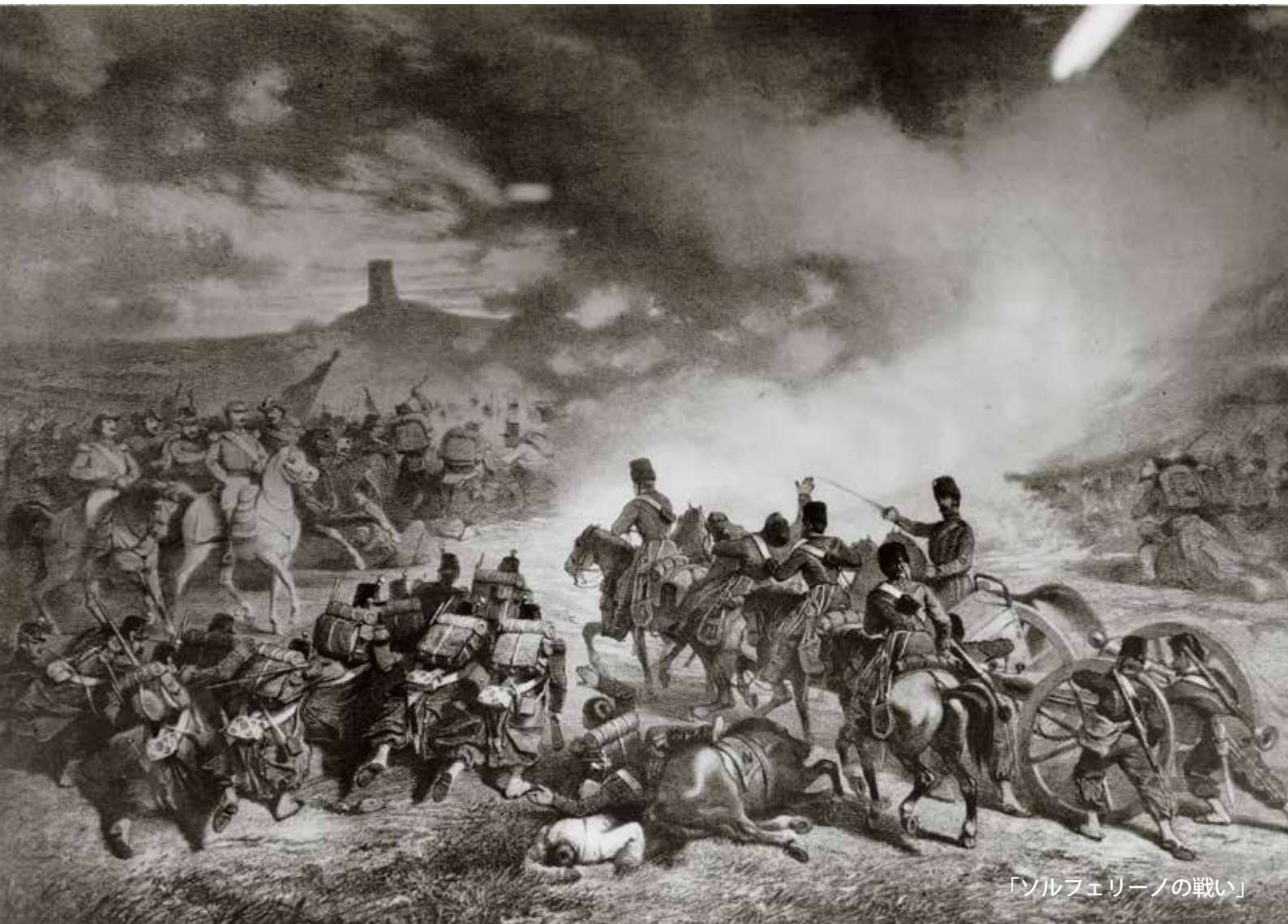
Vol. 199



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字基本原則：人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

■発行所：日本赤十字社鹿児島県支部 〒890-0064 鹿児島市鴨池新町1番5号 TEL099(252)0600 [平成28年4月発行]



「ソルフェリーノの戦い」

「赤十字」はなぜ生まれたのか？

赤十字が生まれるきっかけは150年前、一人の青年が戦争に遭遇したことから…。

「赤十字ってどんな組織なのか分からない」という声が少なくありません。
そこで、設立当初から変わらない、赤十字の想いを分かっただけのために、
まずはその歴史をご紹介します。

「赤十字」の誕生

1 赤十字が生まれるきっかけとなった出来事 【1859年（安政6年）6月】 ソルフェリーノの戦い

イタリア統一戦争中で最も悲惨であったとされるソルフェリーノの戦いは、両軍合わせて32万人の兵士が衝突、1日で4万人の死傷者が出たといわれています。



2 「人間は皆兄弟！」 敵味方なく救護 アンリー・デュナン

旅の途中、その悲惨な有様に心を痛めたのが、スイス人実業家アンリー・デュナン。「人間は皆兄弟！」を合言葉に、人々と協力して、戦場に倒れていた両軍の負傷者を区別せず懸命に救護しました。



3 戦場の悲惨な体験が一冊の本に 【1862年（文久2年）11月】 ソルフェリーノの思い出

そんな悲惨な体験を、彼は1冊の本「ソルフェリーノの思い出」にまとめ、本の中でふたつの提案をしました。

①民間救護組織

敵味方の区別なく救護するための民間の救護組織を前もって各国につくること。

②国際的な約束

その組織が戦場で活動できるよう国際的な取り決めを結ぶこと。



4 デュナンの提案の実現に向けて

【1863（文久3年）2月】

五人委員会

デュナンの提案に賛同した4人のスイス人は、彼を含めて独自に委員会（通称：五人委員会 ※正式には「負傷軍人救護国際常置委員会」）を設立。彼の提案の実現に向け、取り組みははじめました。



5 各国に赤十字社が広まる 【1863（文久3年）10月】 戦時救護団体

五人委員会の呼びかけに応じて、各国に戦時救護団体が組織され、デュナンの提案のひとつが実現しました。この救護団体こそ、赤十字社の前身です。

6 最初の国際的な取り決め 【1864（元治元年）8月】 ジュネーブ条約

16カ国の政府代表が集まり、最初のジュネーブ条約（国際人道法）が採択され、ここにデュナンの二つ目の提案が実現しました。

イラスト：「赤十字をつくった人 アンリー・デュナン」より

県内各赤十字

日本赤十字社鹿児島県支部

鹿児島県支部は、明治25年9月「日本赤十字社鹿児島県委員部」として県庁内に設置されたことから始まります。その後明治29年7月に「日本赤十字社鹿児島支部」に改称しました。

昭和26年2月には鹿児島市郡元町に新庁舎が完成し、翌昭和27年8月には「日本赤十字社法」の制定に伴い、名称を「日本赤十字社鹿児島県支部」に改めました。

現在の赤十字会館（鹿児島市鴨池新町）に移ったのは、昭和52年11月。赤十字会館には支部事務局とともに県血液センターも移転しました。



鹿児島市郡元町にあった鹿児島県支部庁舎

鹿児島赤十字病院

明治38年に鴨池（中郡宇村郡元境浜）に開設された「海濱院」が、病床数64床の「錦江療院」として平川町に移転してきたのが昭和14年のことでした。

昭和43年に「鹿児島赤十字病院」となり、平成24年に結核病棟を廃止し、翌々の平成26年には新しい病棟の新築工事を終え、創設90周年を迎えることになりました。

現在は、豊富な診療科を標榜し急性期医療や離島医療（三島村・十島村）に積極的に取り組み高度な医療サービスを提供しています。

また、災害拠点病院・県災害派遣医療チーム（DMAT）指定病院に指定され、救護班を常に編成するなど、赤十字の使命を全うしつつ地域医療に取り組んでいます。

（内科・リウマチ科・循環器内科・呼吸器内科・整形外科・脳神経内科・麻酔科・放射線科・リハビリテーション科）



海濱院の正面玄関

施 設 の 誕 生

鹿児島県赤十字血液センター

昭和39年8月に「献血の推進について」の閣議決定がなされ、売血の禁止が決議されました。これにより、鹿児島でも日赤が主体となり血液事業を行うことになりました。鹿児島県赤十字血液センターは昭和40年1月、鹿児島市下荒田の化血研鹿児島血液銀行内で業務を開始し、昭和42年9月には、鹿児島市郡元の新社屋に移転しました。当時は、献血者も年間3万人に満たない状況でしたが、昭和44年6月には開所以来10万人、昭和58年には100万人の方々にご協力をいただいております。



昭和42年9月 鹿児島市郡元 新社屋

特別養護老人ホーム錦江園

錦江園は、昭和49年6月に日本赤十字社としては全国初の特別養護老人ホームとして開設されました。当初の定員は50名でしたが、現在は入居70名、短期入所2名となっています。また、建物の全面改築を行い、平成26年2月から入居者10名を1単位としたユニット型特別養護老人ホームとして新たにスタートしました。

入居者の皆様の意思と人格を尊重したサービスの提供に努め、園内外の行事を通して、地域の方々との交流を深めています。



全面改築前の錦江園

日本赤十字社の誕生

1 日本赤十字社が生まれるきっかけとなった出来事 【1877年（明治10年）2月】 西南戦争

官軍と薩摩軍、両軍に多数の死傷者が出ていました。



2 赤十字のような救護団体が 必要だ！ 佐野常民

この悲惨な状況に対し、元老院議員であった佐野常民^{さの つねたみ}、大給亘^{おぎゅうゆずる}の二人は、ヨーロッパの赤十字と同じような救護団体を創ろうと思立ちました。

同年2月、彼らは、政府に対し、「博愛社」の設立を願い出ましたが、この願いは認められませんでした。博愛社の規則のうち「敵味方の区別なく救護する」という考えが認められなかったのです。

3 日本赤十字社の前身 【1877年（明治10年）5月】 救護団体「博愛社」の設立

博愛社の設立を急いだ佐野は、熊本の司令部に赴き、討伐総督有栖川宮熾仁親王に直訴したことにより、博愛社の活動が許可され、直ちに救護員を派遣し、官薩両軍の傷病者の救護にあたりました。



4 世界の赤十字の仲間入り 【1887年（明治20年）5月】 「日本赤十字社」に改称

日本政府がジュネーブ条約に加入したため、「博愛社」から「日本赤十字社」へ改称しました。

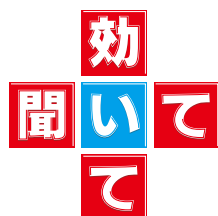
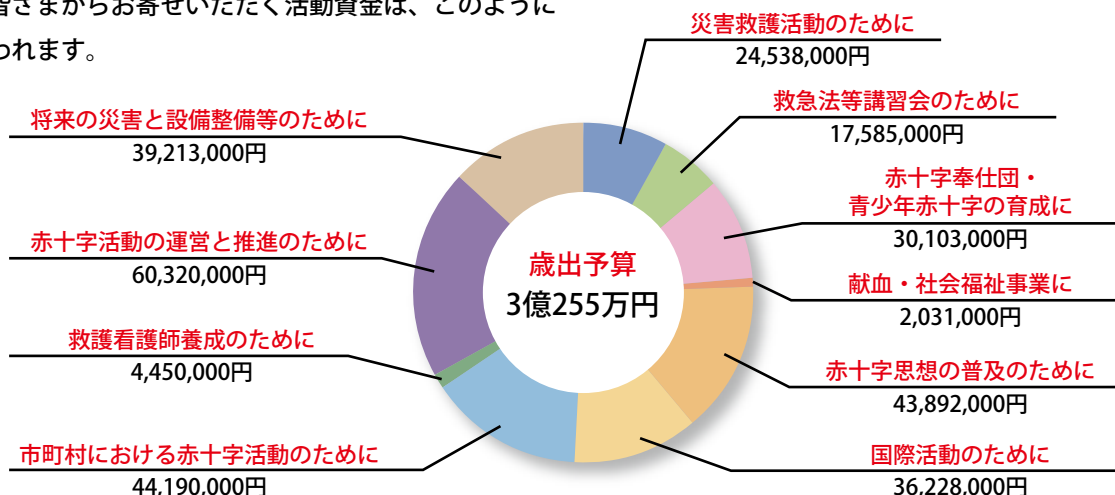
イラスト：
「青少年赤十字ハンドブック」より

TOPIC 5月は赤十字運動月間です！

赤十字の創始者アンリー・デュナンの誕生日は5月8日。
日本赤十字社の前身「博愛社」が設立したのは5月1日。
このように、5月は赤十字にとって縁の深い月です。
その5月を中心に、「赤十字運動月間」として、皆さまに赤十字事業へのご理解とご協力を呼び掛けています。
災害救護や国際救援など、赤十字の活動を支えているのは、皆さまからの活動資金です。
皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

平成28年度 一般会計予算報告

皆さまからお寄せいただく活動資金は、このように使われます。



VOL.64

脳ドックをうけてみませんか？

鹿児島赤十字病院 脳神経外科部長 カフ川 ゾエ添 カス一 マサ正

脳卒中（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血）は、生命を奪ったり、麻痺や言語障害など重篤な後遺症をもたらす事があり、患者だけでなくその家族の生活を一変させる大変恐ろしい病です。また、要介護5（寝たきり等の重介護を要する状態）となっている方の1/3が脳卒中によるもので、日本における死亡原因第4位となっています。（平成26年 厚生労働省統計より）

脳卒中は発症してからの治療では遅いことがしばしばで、発症を防ぐ予防がとても重要になってきます。脳の病気を未然に防ぐために「脳ドック」が有効で、昨今の健康意識の上昇から受診希望者も年を追うごとに増加しています。

脳ドックは画像検査を中心に、血液検査、血圧測定、検尿、心電図、頸部血管エコー、認知機能検査などを実施します。これらの検査において、無症候性の脳梗塞や未破裂脳動脈瘤、頭蓋内血管狭窄・閉塞、頸動脈狭窄・閉塞、脳腫瘍、脳の動静脈奇形、水頭症、動脈硬化、認知症等を早期に発見することができます。早期発見することで、生活習慣の改善や運動療法、食事療法を指導し脳卒中やその他の脳の病気に対するリスクを減らすことができ、ひいては健康な生活を送ることにつながります。

高血圧や糖尿病、肥満、脂質異常と指摘をうけた事のある方、また、家族に脳卒中の既往がある方、偏頭痛や意識消失発作、歩行のふらつき、手足のしびれ、頻尿、物忘れなど症状のある方はぜひ「脳ドック」を検討してみてください。

〈参考〉＊脳ドックは自由診療であり、健康保険対象外となっております。下記は鹿児島赤十字病院における検査内容及び費用となっております。（各医療機関で料金設定は異なります）

脳ドック	最新鋭の診断装置「MRI」を使って、脳疾患の検査（MRI）及び脳の血管撮影（MRA）を行い、脳に関する病気の予防、早期発見、早期治療に努めます。	診察、血圧測定、身長、体重、BMI、検尿、血液検査、心電図、頸部血管エコー、MRI・MRA	30,860円
------	--	---	---------

【お知らせ】赤十字講習受講者の皆さまへ

～認定証の有効期間の変更と資格継続研修について～

赤十字講習の認定証の有効期間が変わります。

2016（平成28）年4月1日から赤十字講習の認定証の有効期間が5年間に変更となります。

赤十字救急員等の資格継続研修を廃止させていただきます。

2019（平成31）年3月31日をもって赤十字救急員等の資格継続研修を廃止させていただきます。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

 **日本赤十字社** 鹿児島県支部
Japanese Red Cross Society

 **099(252)0600**

URL : <http://www.kagoshima.jrc.or.jp/> E-mail : shibu-rc@po.minc.ne.jp

日赤鹿児島県支部

検索